

○推薦入学者選抜について

進路希望調査に現時点での推薦の希望の有無を書いてもらいました。生徒・保護者のみなさんの話の中では、「高校から推薦の話がくる」という表現をよく耳にします。「推薦」とは、自分がよいと思う人・物事を、他人に薦めることです。「推し」の「推」です。そのため、入試において、「推薦がくる」ということはありません。私立高校から部活動等で「勧誘」がくることはあります。混同してしまっている人が多いのかもしれませんが、では、『推薦入学者選抜』とはどのような制度なのでしょうか。

高校入試における推薦入学者選抜は【学校長推薦】と【自己推薦】の2つに分けられます。数年前から道内の公立高校はすべて【自己推薦】となりました。私立高校でも【学校長推薦】から【自己推薦】に切り換えたり、推薦という入試区分自体をなくしたりする高校が増えています。

【学校長推薦】

一部の私立・道外 など

それぞれの中学校が、様々な観点から見て素晴らしいと評価できる生徒を、中学校長が責任をもって推薦する入試です。学力検査はありません。試験は面接のみです。中学校に【推薦依頼書】を提出したのち、「3学年」⇒「校内推薦委員会」⇒「校長面談」という段階を経て、志望する高校へ太平中学校として推薦できる生徒だと判断されて初めて受験（検）資格を得ることができ、中学校が推薦書を準備します。それから入試で合否が判定されるため、受験資格を得たからといって合格したというわけではありません。判断の基準については、高校から出されている“受験（検）資格”、“スクールポリシー”を基準とします。推薦では、高校入学後も活躍が期待される優秀な生徒が求められますので、学習面でも一般入試より条件が厳しくなっているところがあります。特に欠席日数については、3年間で30日以内、単年で10日以内としている学校が多いです。

【自己推薦】

道内公立・高専・一部の私立 など

志望する高校等へ、自分で自分を推薦する入試です。中学校に【自己推薦依頼書】を提出し、【自己推薦書】を自分の力で作成します。自己PRですから、他人から「これを書けばいいのでは？」とアドバイスしてもらって書くのではなく、自分自身で何をアピールするとよいかを考えて作成することが必要となります。また、高校が提示している“スクールポリシー”にマッチしている生徒で、出願する動機や理由が明確であることなどが重要です。中学校からは誤字・脱字程度の指導のみとなります。学力検査はありません。試験は【自己推薦書】をもとにした面接です。（実技等があるところもあります）面接の回答が【自己推薦書】の内容とずれてしまうことがないように、この期間は本気で自分自身と向き合って【自己推薦書】を作成してください。家庭でwordが使える環境がある場合はPCでも作成可能です。そうでない場合は手書きで作成することになります。

どちらの場合も不合格となった場合には次の受験（検）の準備をすることになります。公立高校の場合は、通知後1～2日間で準備することになります。公立は【再出願】、私立は【一般】で新たに出願することが可能です。